Title	神経伝達の新規制御機構:活動依存的な細胞外イオン濃度変化による制御機構の解明					
Sub Title	Investigation of new regulation mechanism of synaptic transmission by activity dependent extracellular Ca2+ dynamics					
Author	荒井, 格(Arai, Itaru)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2018					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)					
JaLC DOI						
Abstract	中枢神経系において、神経活動が亢進するとシナプス近傍の細胞外でCa2+等の濃度が一時的に変化することが知られているが、その機能的意義については不明な点が多い。82型グルタミン酸受容体(GluD2)は小脳平行線維シナブスに存在し、Dセリンと結合してシナプス可塑性を制御するが、細胞外領域にCa2+結合部位を持つ。近年、in vitro実験からGluD2のDセリンに対する親和性は細胞外Ca2+濃度に依存することが報告された(Hansen et al. 2009, JNeurosci.)。このことは小脳平行線維シナプスの可塑性がDセリンだけでなく、細胞外Ca2+濃度にも制御されている可能性を示唆している。本研究は、GluD2をモデルに神経活動による細胞外Ca2+濃度変化がDセリン-GluD2シグナリングへ及ぼす影響を解析し、新規シナプス制御機構を明らかにすることを目的とした。そのためにはGluD2のCa2+に対する結合能を操作した遺伝子改変マウスを作製する必要がある。そこで本年度は主にGluD2に点変異を導入したノックインマウスの作成を行った。変異導入部位については、Hansen et al. (2009)に従い、ツクインマウスの作成を行った。変異導入部位については、Hansen et al. (2009)に従い、ツクインマウスの作成を行った。変異導入部位については、Hansen et al. (2009)に従い、プリア82人によってCa2+結合能を欠損したGluD2、②E521C及びD782Cによって常時Ca2+結合状態を模倣したGluD2を設計した。ノックインマウス①について、標的塩基配列を含むガイドRNAを3種類作製し、それぞれCa59 mRNA及びドナーDNAと共に野生型マウスより採取した受精卵にインジェクションした。生まれてきた仔に対してシーケンス解析した結果、一部にノックインホモマウスを確認した。ノックインマウス②についてはエクソンの異なる2か所に変異を導入するため、変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本年度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本年度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本年度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本年度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本年度はまで1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採った。本度はまず1点目としてD782 Cの変異導入を2回に分けて行う方法を採りと同様の方法で行い、ホモマウスから採取した受精卵を使って2点目のE521Cの変異導入を行い、ノックインマウス②と中のは1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を1を					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170						
OTTE	- The same in the					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	医学部基礎教室	職名	助教(有期・医学部)	補助額	500 (特B)千円
	氏名	荒井 格	氏名 (英語)	Itaru Arai		

研究課題 (日本語)

神経伝達の新規制御機構:活動依存的な細胞外イオン濃度変化による制御機構の解明

研究課題 (英訳)

Investigation of new regulation mechanism of synaptic transmission by activity dependent extracellular Ca2+ dynamics

1. 研究成果実績の概要

中枢神経系において、神経活動が亢進するとシナプス近傍の細胞外で Ca2+等の濃度が一時的に変化することが知られているが、その機能的意義については不明な点が多い。 δ 2 型グルタミン酸受容体 (GluD2) は小脳平行線維シナプスに存在し、D セリンと結合してシナプス可塑性を制御するが、細胞外領域に Ca2+結合部位を持つ。近年、in vitro 実験から GluD2 の D セリンに対する親和性は細胞外 Ca2+濃度に依存することが報告された $(Hansen\ et\ al.\ 2009,\ J\ Neurosci.)$ 。このことは小脳平行線維シナプスの可塑性が D セリンだけでなく、細胞外 Ca2+濃度にも制御されている可能性を示唆している。本研究は、GluD2 をモデルに神経活動による細胞外 Ca2+濃度変化が D セリン—GluD2 シグナリングへ及ぼす影響を解析し、新規シナプス制御機構を明らかにすることを目的とした。そのためにはGluD2 の Ca2+に対する結合能を操作した遺伝子改変マウスを作製する必要がある。そこで本年度は主にGluD2 に点変異を導入したノックインマウスの作成を行った。変異導入部位については、 $Hansen\ et\ al.\ (2009)$ に従い、(D782A によって Ca2+結合能を欠損したGluD2、(D782C によって常時 Ca2+結合状態を模倣した GluD2 を設計した。ノックインマウス①について、標的塩基配列を含むガイド Ca2+ 不ぞれ Ca2+ のののよりに対してシーケンス解析した結果、Ca2+ ののとまに野生型マウスより採取した受精卵にインジェクションした。生まれてきた仔に対してシーケンス解析した結果、Ca2+ のでは、Ca2+ のの異なる Ca2+ の方法で行い、Ca2+ の方法で行い、Ca2+ ので表導入をCa2+ の変異導入をCa2+ の変異導入をCa2+ の変異導入をCa2+ の変異導入をCa2+ ので表記である。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

It has been well-known that extracellular Ca2+ concentration ([Ca]o) at synapse can change by neural activity in the central nervous system. However, the functional significance of this [Ca]o dynamics in synaptic transmission is still elusive. Delta 2 glutamate receptors (GluD2), that are expressed at cerebellar parallel fiber – Purkinje cell synapse (PF-PC synapse), has been reported to regulate synaptic plasticity by binding to D-serine. It has been reported that GluD2 has Ca2+ binding site near its ligand binding domain, and that the affinity of GluD2 to D-serine can be influenced by [Ca]o (Hansen et al. 2009, J Neurosci.). This suggests that the synaptic plasticity at PF-PC synapse can be regulated not only by D-serine but also by [Ca]o. In this study, using D-serine – GluD2 signaling at PF-PC synapse, I aimed to investigate the possibility of the synaptic transmission being regulated by the [Ca]o dynamics. For this aim, in this year, I tried to produce two knock-in (KI) mice which have mutations in GluD2 by CRISPR/Cas9 system; (1) D782A single mutation to impair Ca2+ binding ability, and (2) E521C and D782C two points mutation to mimic constitutive Ca binding state. Regarding KI mouse (1), KI homo mice were already obtained successfully. KI mouse (2) is in the process of production but will be obtained soon.

production but will be obtained coon.								
3. 本研究課題に関する発表								
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)					
_	Chemical labeling for visualizing native AMPA receptors in live neurons	Nature Communications	2017 年 4 月					
Nakatake, Itaru Arai, Keiji Ibata, Kazuhisa Kohda,	overexpression of single		2017 年 6 月					
	,	EBioMedicine	2017 年 9 月					